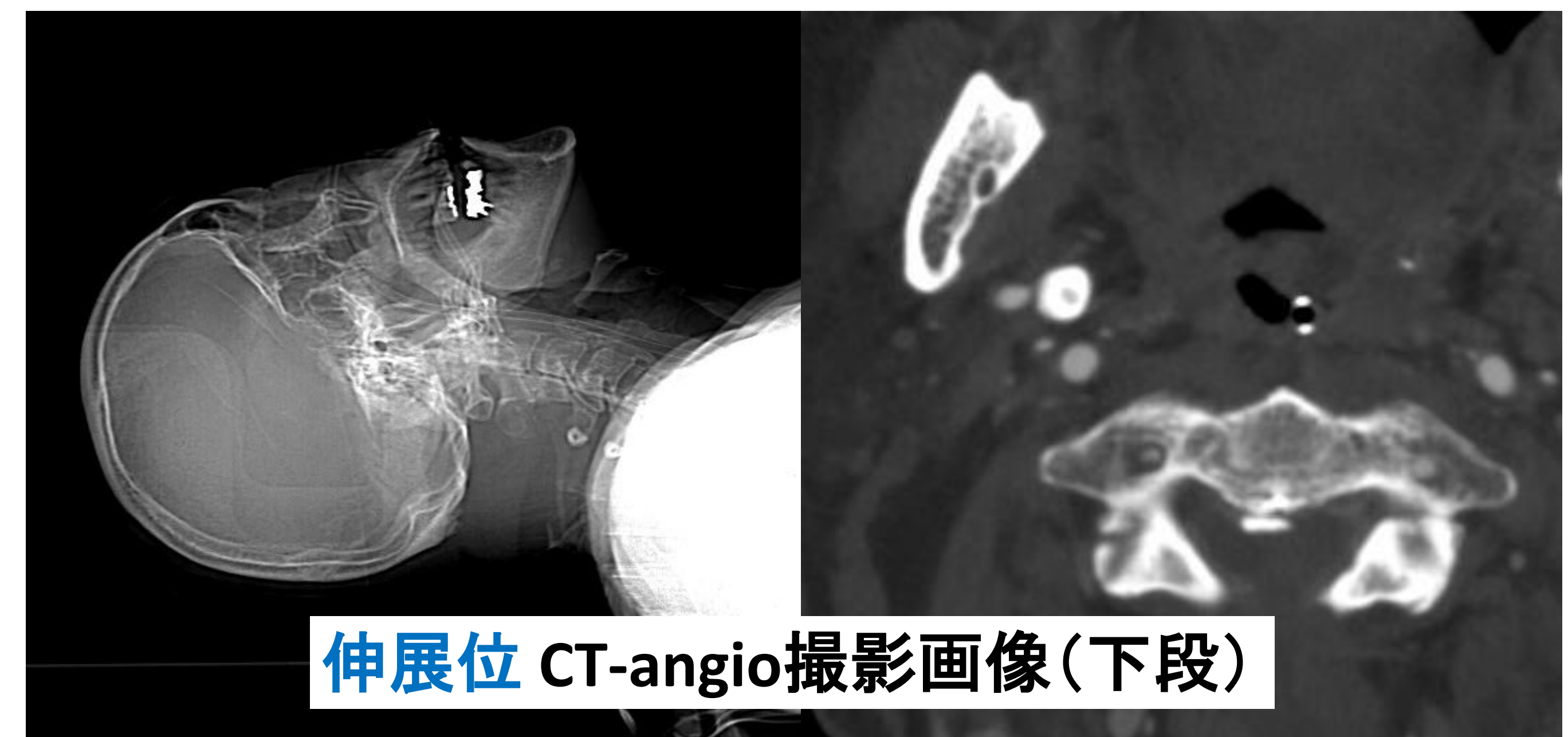
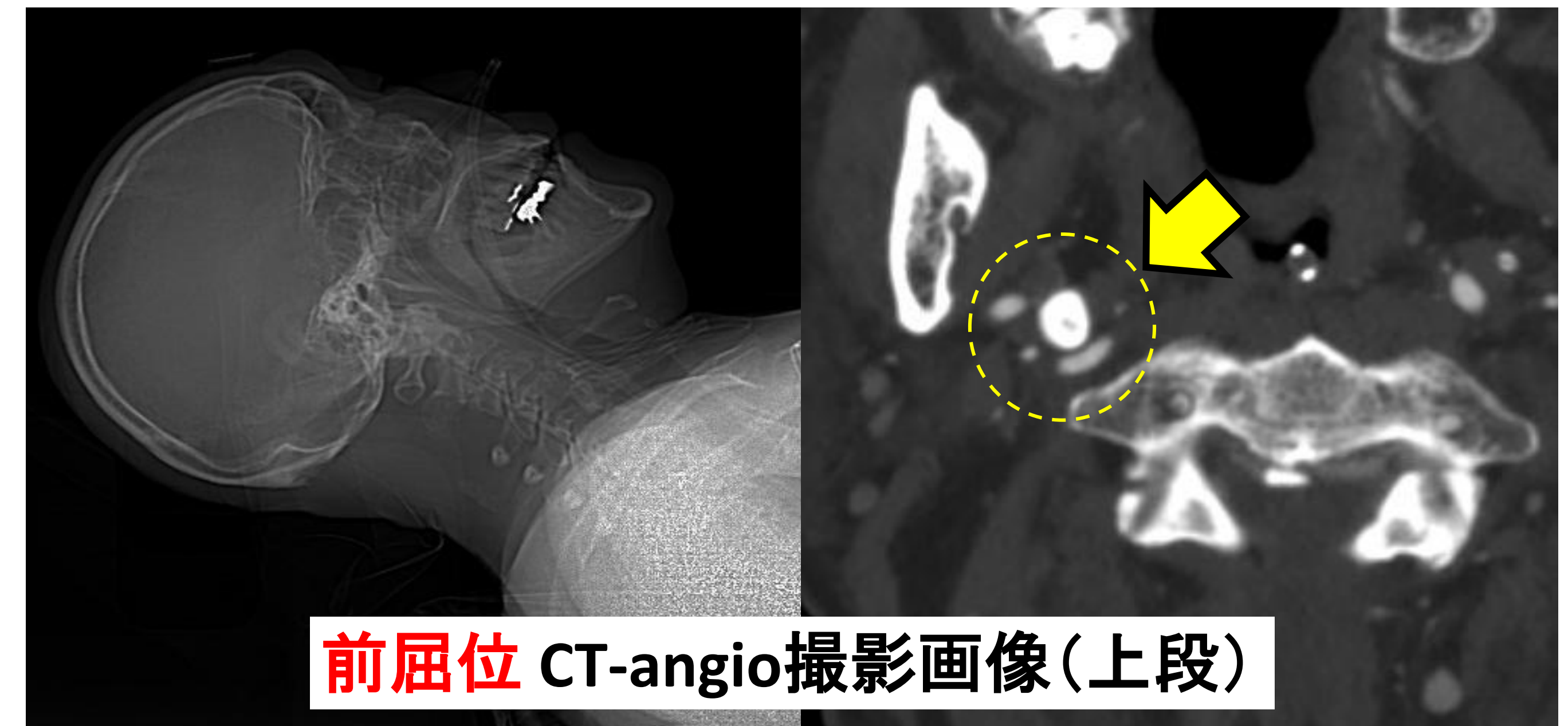
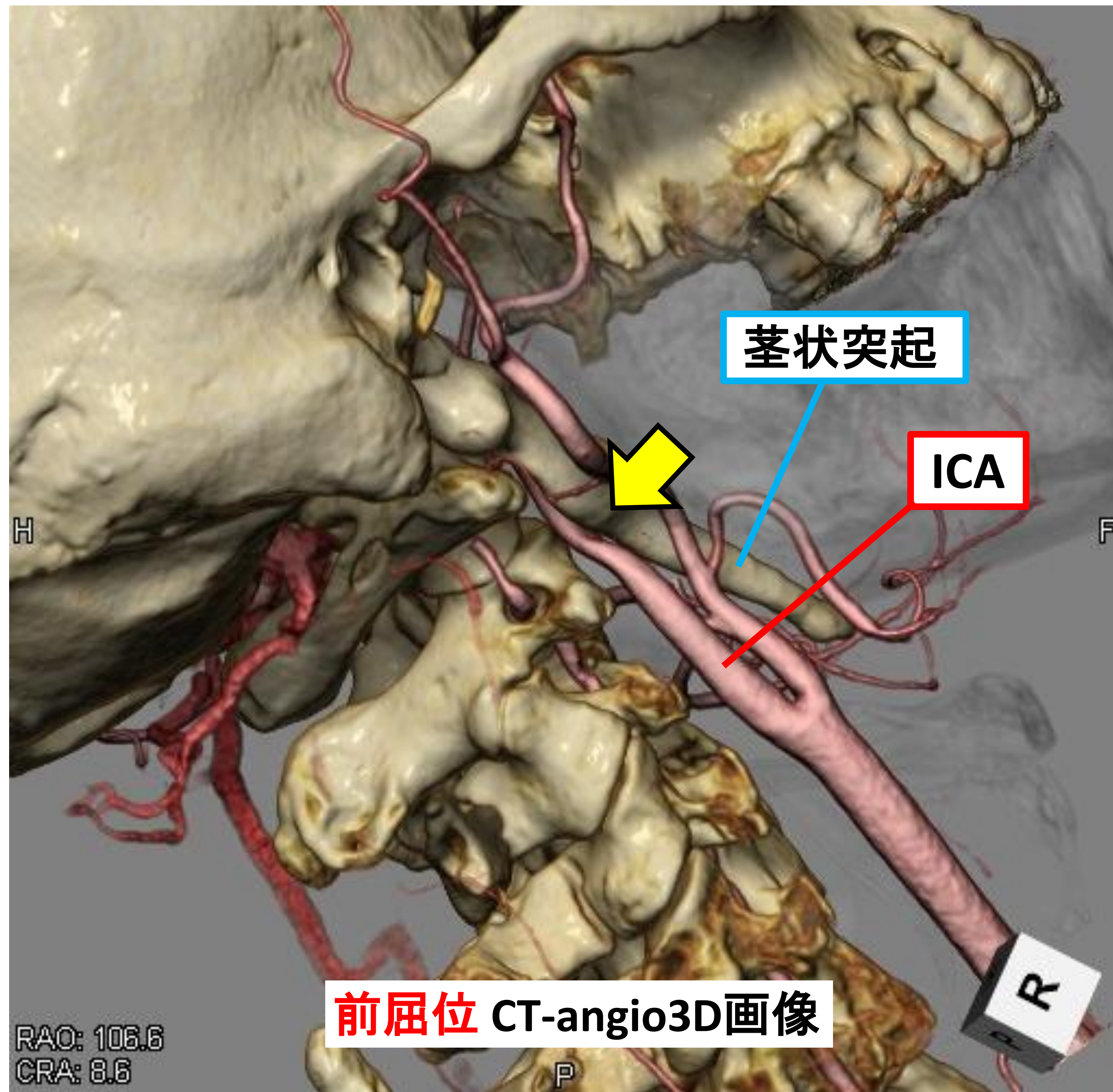


# Stylo-carotid artery syndrome



**撮影目的：** 整形手術後から意識障害と左不全麻痺を繰り返しており、茎状突起過長症による、右内頸動脈圧迫ならびに過灌流症候群が疑われ、頭頸部CT-Angioの依頼があった。

**撮影方法：** **前屈位**と**伸展位**で撮影日を分けて、撮影した。  
前屈位では依頼医 立会い協力のもと、意識状態を確認しながらポジショニングを行った。

**画像説明：** 右の茎状突起は約80mmあり、**前屈位**のCT-angioでは、➡で示す部位で茎状突起により右のICAが圧排、狭小化されているのがわかる。伸展位では圧排を確認できない。  
今回の撮影が診断の一助となり、解剖の理解が深まった。今後、頭部Angioや頭頸部CT/MRIのポジショニングする際にも本症例を念頭に置く必要がある。

## 撮影条件

管電圧 : 100kV  
線量 : CT-AEC(NI:4.0/5mm)  
Coverage : 40mm  
Pitch : 0.516:1  
Rotation Time : 0.35s

## 造影条件

ヨード量 : 25.0mgI/kg/sec  
造影法 : TBT法  
注入時間 : TEST(2s) 本撮影(10s)